

# 雪解の榆陵の

(昭和十九年寮歌)

鈴木信夫 作歌  
竹山賢治君 作曲

## 一

雪解の榆陵の一流や  
岸辺に憩ふ水鳥の  
孤影ぞしばし春の水  
面ああ石狩の天空晴  
れて轟け謳ふ恵迪の  
児等が生命や聖からん

## 二

歡喜憂苦を共にせむ  
結ぶ契の盃に  
松の枝漏るる月影や  
人生意気に感じてか  
集ひし雁の行く手稲  
青雲の峯巍峨の峯

## 三

いざや伝統の聖火を翳し  
先人の絢夢偲びつつ  
寮祭の庭に四十回の  
春風頬涙を乾すなれば  
散りゆく夜迷雲のかげ消えて  
声を限りの感激かな

## 四

南の海の有明に  
燦く星辰の消え果てて  
散りぬる若桜もあるぞかし  
いかで我等の蹶起ざらん  
義憤が胸にほのぼのと  
染め映えにしか朝日影

## 五

噫世は変遷り人変り  
館の原始林は愁へども  
剛毅の大旆仰ぎてし  
熱血燃ゆる益良夫が  
皇国の道に挺身まんと  
誓ひし眸に光輝あれ